中国史“論文”の集め方
（簡易版）

綿貫哲郎

0. はじめに

私事で恐縮だが、歴史の本を読み始めた小中学生の頃、興味ある人物や事件などの情報が関連書だけは全く足りなくて、漫画や小説・同人誌を集めたり、無謀にも原史料の翻訳を試みて知的好奇心を満たそうとした。

現在は大学で教えながら論文を書く私だが、歴史創作や視覚的に美化されたキャラクターを通した歴史の楽しみ方に、当然異論はない。また近年では、

優れた歴史愛好家や“在野”研究者の“研究成果”も多い。

本稿では、“研究成果”のうち“論文”の集め方を、初学者向けに紹介する。なお本稿の“論文”は、主に大学生以上が研究で使うものとする。

1. 論文

論文とは、“ある学術的問題点について論拠を示して論理的に証明した文章”を意味する。“ある学術的問題点”を学界向けに論じるので、専門用語が多く難解である。とはいえ、集め方や読み方さえ間違えなければ、情報量が詰まった知的好奇心を満たす有力なツールのひとつとなろう。

論文には、文中に“先行研究”があり、頁下や文末に“注(“註”や“注釈”ともいう)”・

“参考文献”などがあるので、発行年の新しい順に集めれば、“イモヅル式”に関連論文を探し出せる。

論文は、複数の論文（複数人または１人による執筆）が１冊に収められた廉価な本があったり、論文集と名の付く発行数の少ない高価な本（共にISBN［国際標準図書番号］が付く）がある。一方、“論考”・“論説”または“研究ノート”などと称されて、研究年報や紀要といった定期刊行物（ISSN［国際標準逐次刊行物番号］が付く。本稿では学術雑誌を指す）に載録される論文もある。定期刊行物は、普段は専門書店か大学図書館で目にするぐらいだが、近年では様々な事情でオープンアクセス化されたものが増えている。

2. インターネットの利用

2-1. 論文の“オープンアクセス化”

近年、インターネット上では、主にＰＤＦ（ピーディエフ）形式で電子化（でんしか）された論文を目にする。これは、ウェブサイトをもつ研究団体（けんきゅうだんたい）、または ACADEMIA や個人サイトを通じて研究者個人が論文をアップロードしたもので、“オープンアクセス化”と言われる。

しかしながら、オープンアクセス化された論文およびウェブ上のその他の“研究成果”だけを使った研究、または大学生の卒業論文やレポート、さらにはゼミでの発表を進めるのは、現状では無謀と言わざるを得ない。なぜなら、過去に紙媒体で活字化された論文を改めてオープンアクセス化するのに、様々

な問題が未解決のままの学会や定期刊行物などがあるからだ。つまり、いまウェブ上に存在する論文は、現在までに発表された論文全体のごく一部分を占めるに過ぎない。事情を理解した上でオープンアクセス化された論文を有効に活用して欲しい。

2-2. 論文検索（及びダウンロード［DL］）

論文が載録された定期刊行物や本が、どの図書館に所蔵されているかを紹介する。この種の検索エンジンでは“CiNii（サイニイ）”がよく知られている。CiNii には「日本の論文をさがす」・「大学図書館の本をさがす」・「日本の博士論文（はくしろんぶん）をさがす」の三つの入口がある。

「日本の論文をさがす」では、定期刊行物に記載された論文はほぼ検索可能で、もし検索結果の定期刊行物がオープンアクセスされていれば、当該リポジトリへの直(ちょく)リンクまたはJ-STAGEへのリンクが貼られている。

CiNiiの問題点として押さえておきたいのは、「日本の論文をさがす」では一般週刊誌のゴシップ記事までが論文として表示されてしまうこと、「大学図書館の本をさがす」では“本に載録され

CiNii Articles

小伝 那珂通世--草創期の東洋史学 (三田史学の100年を語る)

Shoden Naka Michiyo : sosoki no toyo shigaku

この論文にアクセスする

機関リポジトリ

この論文をさがす

NDL ONLINE

CiNii Books

史林 = THE SHIRIN or the JOURNAL OF HISTORY 53(4), 513-532, 1970-07-01

機関リポジトリ　DOI

古の滿洲

那珂 通世

地學雜誌 18(2), 90-100, 1906

J-STAGE

古の滿洲

那珂 通世

地學雜誌 18(1), 27-35, 1906

J-STAGE

た論文”が検索できないことなどである。後者は、国立国会図書館ONLINE（納本された本のみ検索可）か都立図書館蔵書検索（所蔵された本のみ検索可）を併用することで解決する。

現在、あらゆる本・定期刊行物・論文を全て網羅したデータベースは存在しない。「使いにくい」だろうが、自分なりに工夫を凝らして欲しい。またCiNiiは、新規の論文の電子化・公開をすでに終了した。オープンアクセス化した論文の収集・公開は、J-STAGEが後継プラットホームとしての役割を果たしつつある。

“国立国会図書館デジタルコレクション”は、同館が収集・保存した本や定期刊行物などのうち、一定期間経過したものを電子化し公開している。一冊

まるごとのDLが可能だが、著作権者への配慮で、国会図書館と一部図書館だけの“限定公開”になっているものが多い。

中国語論文の検索・収集には、ＣＮＫＩ（中国知識基礎設施工程）と万方数据庫知識服務平台（検索無料、DL有料）がある。万方は掲載論文こそCNKIより少ないが、検索速度はCNKIと比べて早い。

CNKIは中国の主要な定期刊行物とその論文（“学術期刊”）、博士・修士論文（“博碩論文”）や“会議論文”などが無料検索できる。ただし、論文のDLは原則有料で以下の3つの手段がある。

①東方書店でCNKIカードを購入する。現在、一番安い20ポイントカードは7,200円で、“学術期刊”ならば一頁

あたり 0.4 ポイント（140.4 円）を消費する。

②国立国会図書館の新館でプリントアウトする。コピー代は A4 版一枚 14 円、遠隔複写（後述）も可能だ。

③所属する大学が CNKI と契約していれば、大学のサーバ経由で無料 DL できる場合がある。ただし、②と③の利用では“博碩論文”と“会議論文”

はDL不可である。

“台湾博硕士論文知識加値系統（国家図書館）”は、台湾の博士・修士論文が無料検索できる。現地でIDとパスワードを取得すれば無料DL（電子版で納本されたもののみ）ができる。その他、日本のCiNiiやJ-STAGE、中国のCNKI的役割に相当する国家図書館の“期刊文献資訊網”や“華藝線上図書館（検索無料、DL有料）”もある。

このほか、近年は更新されていないが、“東洋学文献類目検索（京都大学人文科学研究所付属東アジア人文情報学研究センター）”は、センターに所蔵する邦文・中文・英文の論文や本を検索するのに非常に有用である。

2-3. その他

図書館のウェブサイトでは“研究入門”などを紹介している（例：TUFS-ビブリオ［東京外国語大学附属図書館］、“東洋史に関する文献（ぶんけん）を探すには［国立国会図書館］”など）。また、専門書店のウェブサイトやAmazonのほか、“日本の古本屋”などを定期的に巡回することで、本や論文などを購入できる。

近年は検索エンジンの性能が向上したため、論文の全文がGoogle（グーグル）で検索・表示されることも増えた。しかし、いまだに論文タイトルでしか検索できない論文は多いし、前述したように、すべての論文がオープンアクセス化されている訳ではない。検索で論文が見つかりにくいならば、隣接するキーワー

ドをいろいろ試して欲しい。

　それからもうひとつ。論文は存在するのに論文名を入力しても検索表示されないことがある。理由は不明だが、頭の片隅に置いといて欲しい。

3. 研究入門書

　冊子体は基本的なものだけを挙げる。中国史全体としては、礪波護（となみまもる）ら［編］『中国歴史研究入門』（名古屋大学出版会、2006年）、山根幸夫［編］『中国史研究入門』上・下（山川出版社、1983年→増補改訂は1991～1995年）、島田虔次（しまだけんじ）ら［編］『アジア歴史研究入門』1～5（同朋社、1983～1987年）は欠かせない。近代中国では、岡本隆司（おかもとたかし）・吉澤誠一郎（よしざわせいいちろう）［編］『近代中国研究入門』（東京大学出版会、2012年）、小島晋治（こじましんじ）・並木頼寿（なみきよりひさ）［編］『近代中国研

究案内』（岩波書店、1993年）、地域史・宗教史としては、朝鮮史研究会［編］『朝鮮史研究入門』（名古屋大学出版会、2011年）、桃木至朗（ももきしろう）［編］『海域アジア史研究入門』（岩波書店、2008年）、小松久男（こまつひさお）ら［編］『中央ユーラシア史研究入門』（山川出版社、2018年）、小杉泰（こすぎやすし）ら［編］『イスラーム世界研究マニュアル』（名古屋大学出版会、2008年）などがある。

定期刊行物『史学雑誌（しがくざっし）』5月号「回顧（かいこ）と展望（てんぼう）」には、前年に発表された論文を紹介する。また、前述した東洋学文献類目には冊子版（2018年3月分までで終了）もある。このほか、研究者が主に自分の分野での研究史を“研究ノート”として執筆することも多い。

4. 図書館・研究機関など

市立・県立などの公共図書館は、“研究成果”を分かりやすくまとめた概説書・新書やリブレットなどの本は多く所蔵するが、論文を載せた本や定期刊行物は多くない。公共図書館しか身近にない時は、遠慮なくリファレンスサービスを利用して論文のコピーや本の取り寄せをしよう。利用は無料だが、論文の場合はコピー代と送料が必要になる。

学生ならば、自分が所属する大学図書館で探し、足りない場合は、大学が相互協力する大学図書館がないかを調べて利用したり、公共図書館同様に大学図書館のリファレンスを使い倒そう。

首都圏在住ならば、都立図書館と国立国会図書館を使い倒そう。都立図書

館は、本は港区の都立中央図書館、雑誌は国分寺市の都立多摩図書館に分けて所蔵しているが、他の公共図書館と違って、論文を載録する本や定期刊行物を多く所蔵している。また、日曜や夜間でも開館していて、コピーは安価なセルフコピーが可能な本も多い。

都内永田町にある国立国会図書館（“関西館”もある）は、“利用者登録（りようしやとうろく）”すれば遠隔複写も可能になる。ただ、コピーはセルフではなく委託（いたく）になり、当日か後日の受け取りになる点は注意したい。コピー代は若干割高だが、リファレンスサービスと値段を比較して利用するとよい。

なお、同館では本に載録された論文をコピーする時は注意が必要である。一定期間を経過した定期刊行物の論文

ならば問題ないが、複数人が論文を執筆した本の場合は、その論文の半分未満しかコピーできない。例えば、一冊の本の中でAさんの書いた論文が30頁ある場合は、15頁を超えてコピーできないのである。こうした場合は、公共図書館か大学図書館でリファレンスを利用して、本を所蔵する図書館から取り寄せるなどして全文にアクセスする必要がある。

このほか、東洋文庫（とうようぶんこ）図書室や東京大学東洋文化研究所（とうようぶんかけんきゅうじょ）図書館が使える。後者は国立大学の附属研究所の図書館だが、ここに限らず国立大学の図書館は手続きさえ踏めば学外者でも利用できたりする。それから、あまり知られていないが、近隣住民や通勤・通学者を対象に大学図書館を開放している大

学がある。利用可能かどうかウェブサイトを調べるとよい。

5. おわりに

以上、初学者向けの“論文”の集め方について、主にインターネット利用をメインに紹介した。

ウェブ上での論文検索が普及していない私の学生時代、私自身は月に二度は国立国会図書館で論文を検索・コピーし、月に一度は亜東書店→東方書店→内山書店→山本書店→燎原書店→海風書店→琳琅閣書店 or 中華書店→東豊書店の順（当時）に専門書店を巡り、論文や研究書など“研究成果”を確認した。現在では手持ちのパソコンやスマホで解決してしまうが、今でも足で探すことで得られる情報もあろう。

本稿では、論文および論文が載録された本と定期刊行物（学術雑誌）に限定したため、“研究成果”としての概説書・新書・ブックレットや工具書、またウェブサイトなどは、紙幅の都合で紹介できず、時代や分野を掘り下げられなかった。

本稿の大部分は、研究者の間では知られたことばかりだが、本稿で紹介するべき内容の取捨選択を間違えていたなら、その非はすべて私にある。みなさんには、本稿を“叩（たた）き台”にして自分に興味ある分野や身近な図書館などをカスタマイズした集め方を構築してもらえたら本望である。

☆本文中で紹介したサイト

1. ACADEMIA：https://www.academia.edu/
2. CiNii Articles：https://ci.nii.ac.jp/
3. 国立国会図書館 ONLINE：
   https://ndlonline.ndl.go.jp/?func=find-a-0&local_base=gu_ss#!/
4. 東京都立図書館蔵書検索：
   https://catalog.library.metro.tokyo.jp/winj/opac/search-detail.do?lang=ja
5. J-STAGE：
   https://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja
6. 国立国会図書館デジタルコレクション：http://dl.ndl.go.jp/
7. 万方数据知識服務平台：
   http://old.g.wanfangdata.com.cn/
8. CNKI：
   http://new.gb.oversea.cnki.net/index/
9. 東方書店（CNKI）：
   https://www.toho-shoten.co.jp/cnki/cnki.html
10. 台湾博碩士論文知識加値系統：
    https://ndltd.ncl.edu.tw/cgi-bin/gs32/gsweb.cgi/ccd=2bOGvg/webmge?mode=basic
11. 期刊文献資訊網：
    http://readopac.ncl.edu.tw/nclJournal/index.htm

12. 華藝線上図書館：
http://www.airitilibrary.com/Home/Index
13. 東洋学文献類目検索 [第 7.4 α版]：
http://ruimoku.zinbun.kyoto-u.ac.jp/
14. 学生のための基本文献ガイド「TUFS- ビブリオ」：
http://www.tufs.ac.jp/common/library/guide/biblio/tufsbiblio.html
15. 東洋史に関する文献を探すには：
https://rnavi.ndl.go.jp/research_guide/entry/post-275.php
16. Amazon：https://www.amazon.co.jp/
17. 日本の古本屋：
https://www.kosho.or.jp/
18. 史学雑誌：
http://www.shigakukai.or.jp/journal/
19. 東洋文庫図書室：
http://www.toyo-bunko.or.jp/library3/
20. 東京大学東洋文化研究所図書室：
http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~library/

追記：東洋学文献類目については、山田崇仁氏（本会顧問）を通じて白須裕之氏（京都大学）より最新の情報を頂いた。また本稿で使用した画像は、秋山陽一郎氏（本会幹事）の手を煩わせた。ここに記して謝意を表したい。

中国史史料研究会会報　創刊号

2019 年 7 月 1 日発行

編集

中国史史料研究会

hoc@shigakusha.jp

https://shigakusha.jp/hoc/

発行・事務局

合同会社 志学社

〒 272-0032

千葉県市川市大洲 4-9-2

Tel 047-321-4577 / Fax 047-321-4578

info@shigakusha.jp

https://shigakusha.jp

本書の著作権者に無断での複製（コピー・デジタル化など）並びに無断で複製したものの譲渡及び配信する行為については、著作権法上での例外を除いて禁じられています。また、第三者（代行業者など）に依頼して本書を複製する行為は、個人や家庭内での利用を問わず一切認めておりません。

中国史史料研究会会報

創刊号